



Agilent CrossLab CS
リークディテクタ
操作マニュアル



注意

© Agilent Technologies, Inc. 2021

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

マニュアル番号

G6693-96000

エディション

第1版 2021年11月

Printed in USA

Agilent Technologies, Inc.

412 Ying Lun Road

Waigaoqiao Free Trade Zone

Shanghai 200131 P.R.China

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、注意を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、警告を無視して先に進んではなりません。

リークディテクタ

はじめに	5
Power/Mode ボタン	5
Enter/Clear/Toggle ボタン	6
リークディテクタの電源のオン / オフ	7
注記、注意、警告	8
製品仕様	11
ガスの検出感度	12
動作モード	13
ウォームアップモード	13
検出モード	14
情報モード	16
漏れの検出	24
プローブフィルターの交換 / 修理	25
USB インタフェース	26
警告およびエラー表示	28
警告表示	28
エラー表示	28
電池残量の低下	29
電源のインジケータ	30
カートリッジの取り付け / 交換	31
カートリッジの取り付け	31
ADM フローメータ カートリッジの交換	32
電池の交換	34
ファームウェアの更新	36
リークディテクタスタンドの使用	36

リークディテクタ

安全および規制に関する認証 37

クラス A EMC 認証 37

リークディテクタ

はじめに

はじめに



図 1 Agilent CrossLab CS リークディテクタの操作ボタン

Agilent リークディテクタは、機器前面の画面の下にある 2 つのボタンで制御します（図 1 を参照）。このセクションでは、これらのボタンの機能について説明します。

Power/Mode ボタン

[Power/Mode]（電源 / モード）ボタンは、リークディテクタの電源をオン / オフ、または動作モードをスクロールして選択するために使用します。

- 機器の電源をオンにするには、[Power/Mode] ボタンを短く押します。
- 機器の電源をオフにするには、[Power/Mode] ボタンを 3 秒間長押しします。
- 使用可能なモードをスクロールするには、機器がオンのときに、[Power/Mode] ボタンを必要な回数押します。

リークディテクタ

Enter/Clear/Toggle ボタン

Enter/Clear/Toggle ボタン

[Enter/Clear/Toggle] (Enter/ 消去 / 切り替え) ボタンは、動作モードの機能にアクセスするために使用します。

- 検出のベースラインをリセットするには、**[Detection]** (検出) モードで [Enter/Clear/Toggle] ボタンを短く押します。
- **[Info]** (情報) モードで設定を変更するには、[Enter/Clear/Toggle] ボタンを長押しします。

リークディテクタ

リークディテクタの電源のオン/オフ

リークディテクタの電源のオン/オフ

リークディテクタの電源がオフのときに [Power/Mode] ボタンを短く押すと、電源がオンになります。[Leak Detector] が画面に約3秒間点滅表示された後、動作が開始します。



図2 Agilent リークディテクタの初期画面表示

機器の電源がオンのときに [Power/Mode] ボタンを3秒間長押しすると、機器の電源が切れます。



図3 Agilent リークディテクタのシャットダウン画面

注記、注意、警告

注記

- チューブは交換できません。チューブを取り外さないでください。
- フィルターは、リークディテクタ用カートリッジで唯一の修理、交換可能な部品です。
- リークディテクタ用カートリッジは毎年校正する必要はありません。
- リークディテクタ用カートリッジを、ファームウェアバージョンが 1.2.1911.1501 以下の ADM フローメータメインフレームで使用する場合は、最新のファームウェアに更新してください。

注意

- 腐食性ガスの検出にリークディテクタを使用しないでください。
- プローブチップを高温の熱源にさらさないでください。
- 溶媒または液体（スヌープなど）が付着している部分にリークディテクタのプローブを使用しないでください。
- 仕様の動作範囲外の温度でリークディテクタを使用しないでください。
- 仕様の湿度範囲外の高湿度環境でリークディテクタを使用しないでください。
- 漏れが疑われる部分のスニффイングの実行を除き、プローブを他の目的に使用しないでください。

警告

- 付属の USB ケーブルを使用し、必ず DC 5 V、0.5 A の USB 電源に接続して給電してください。
- 可燃性ガスが大量に漏れている危険な環境でリークディテクタを使用しないでください。
- リークディテクタを安全装置として使用しないでください。

リークディテクタ

注記、注意、警告

WARNING

- Verwenden Sie zum Aufladen dieses Geräts ausschließlich eine 5v DC, 0,5A USB-Stromquelle und das mitgelieferte USB-Kabel.
 - Verwenden Sie den Lecksucher nicht in gefährlichen Umgebungen, in denen große Mengen an brennbaren Gasen austreten.
 - Verwenden Sie den Lecksucher nicht als Sicherheitsausrüstung.
-

ATTENTION

- Utilisez uniquement une source d'alimentation USB 5 V CC, 0,5 A et le câble USB fourni pour charger cet appareil.
 - N'utilisez pas le détecteur de fuites dans des environnements dangereux où de grandes fuites de gaz inflammables existent.
 - N' utilisez-pas le détecteur de fuites comme équipement de sécurité.
-

ATTENZIONE

- Per caricare questo dispositivo, utilizzare solo una fonte di alimentazione USB da 5 V CC, 0,5 A e il cavo USB in dotazione.
 - Non utilizzare il rilevatore di fughe in ambienti pericolosi in cui vi siano importanti fughe di gas infiammabili.
 - Non utilizzare il rilevatore di fughe come apparecchiatura di sicurezza.
-

ADVERTENCIA

- Para cargar este dispositivo, use solamente una fuente de alimentación USB de 0,5A, DC 5V y el cable de alimentación suministrado.
 - No utilice el detector de fugas en entornos peligrosos en los que existen grandes fugas de gases inflamables.
 - No use el detector de fugas como equipo de seguridad.
-

リークディテクタ

注記、注意、警告

警告

- 仅使用 5v DC、0.5A USB 电源和随附的 USB 电缆为本设备充电。
 - 请勿在有大量易燃气体泄漏的危险环境中使用检漏仪。
 - 请勿将检漏仪用作安全设备。
-

製品仕様

表 1 Agilent リークディテクタの仕様

項目	値
感度*	大気中のヘリウム 0.003 mL/min
動作温度範囲	0 ~ 45 °C (結露なきこと)
保管温度範囲	- 15 ~ 50 °C
電源	単三アルカリ電池 3 本、または USB 電源
ディスプレイ	128x64 ピクセル、モノクロ、 16 段階のグレースケール

* 標準大気圧、20 °C ~ 26 °C の室温で、校正済み漏えい源を使用して検証。

ガスの検出感度

ガスの検出感度は、周囲の空気に対する標的ガスの相対熱伝導度によって異なります。以下に、算出された最小検出可能感度の表を示します。

表 2 算出された最小検出可能感度

ガス	最小検出感度 (mL/min)	レベル インジケータ
水素	0.0025	塗りつぶされたバー
ヘリウム	0.003	塗りつぶされたバー
メタン	0.014	塗りつぶされたバー
窒素	0.4	塗りつぶされていないバー
アルゴン	0.03	塗りつぶされていないバー
二酸化炭素	0.03	塗りつぶされていないバー

リークディテクタ

動作モード

動作モード

リークディテクタの電源をオンにした状態で [Power/Mode] ボタンを短く押して、動作モードをスクロールします。

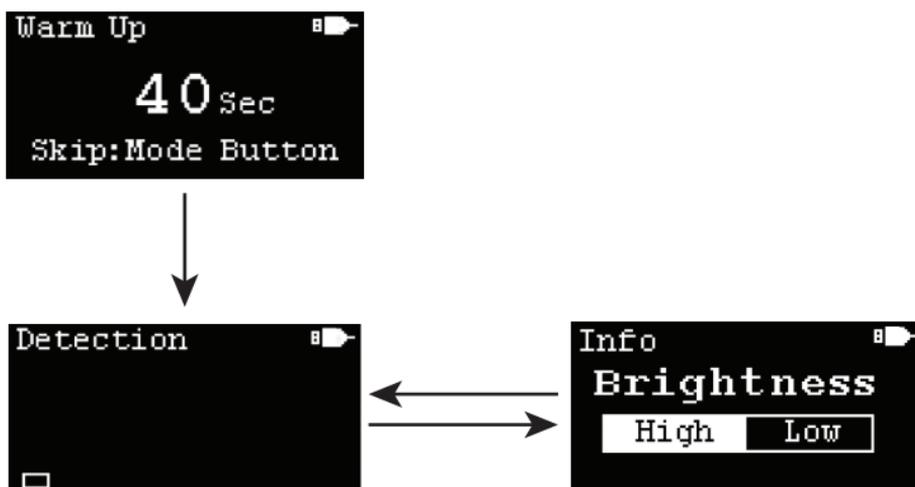


図4 ウォームアップ画面と動作モードのスクロール

使用可能な動作モードは以下のとおりです。

ウォームアップモード

電源投入時のデフォルトモードです。リークディテクタは、電源を入れると、50秒間ウォームアップします。

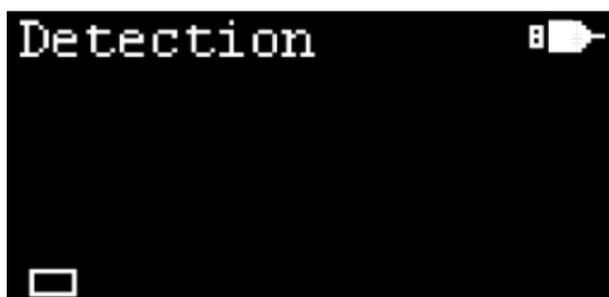
[Power/Mode] ボタンを短く押すことにより、ウォームアップをスキップすることができます。ただし、[Detection] (検出) モードにおける精度を確保するためには、ウォームアップを完了させます。ウォームアップが完了すると、リークディテクタは [Detection] モードに自動的に切り替わり、使用できる状態になります。

リークディテクタ

検出モード

検出モード

このモードでは、リークディテクタはいつでもガスのリークを検出できます。プローブで周囲の空気を測定している場合、最初のバーが塗りつぶされたバーと塗りつぶされていないバーを交互に表示している場合は、リークディテクタが安定していることを示します。最初のバーが塗りつぶされたバーと塗りつぶされていないバーを交互に表示していない場合は、[Enter/Clear/Toggle] ボタンを押すと、バーが消去されます。



ガス漏れが検出されると、バーレベルが画面に表示されます。バーのレベル数は、漏れの程度に比例し、最大 8 つのバーレベルを表示でき、大きな漏れが検出されたことを示します。検出部に流入するガスのタイプを示すバーレベルは 2 種類あります。

塗りつぶされたバー – 熱伝導度が空気より高いガスのリーク。



リークディテクタ

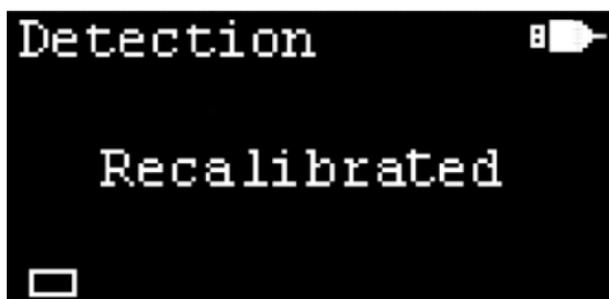
検出モード

塗りつぶされていないバー – 熱伝導度が空気より低いガスのリーク。



バーレベル数が2より大きい場合は、漏えい警告サインが画面に点滅表示されて視覚的に警告し、ブザーを鳴らすことによって音でも警告します。

周囲の空気のプロービング時には、誤った測定値がバーとして画面に表示される場合があります。これは、チップのドリフトが原因である可能性があります。リセットやベースライン補正を実行するには、プローブを周囲空气中で2秒間保持してから、[Enter/Clear/Toggle] ボタンを短く押します。補正後、バーレベル数がゼロにリセットされ、**[Recalibrated]** と画面に表示され、リークディテクタが再校正されたことを示します。



情報モード

[Info]（情報）モードでは、フィルターの使用期限など、リークディテクタと現在取り付けられているカートリッジに関する詳細が表示されます。さらに、**[Info]**モードでは、ディスプレイの輝度レベルや、ブザーのオン/オフなどの設定を制御します。

情報モードへのアクセス手順：

- 1 **[Info]** モードが画面に表示されるまで、**[Power/Mode]** ボタンを短く押します。
- 2 **[Info]** モードになったら、**[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを短く押し、使用可能なページへスクロールします。

ディスプレイの輝度

ディスプレイの輝度は高または低に設定できます。

ディスプレイの輝度設定の変更手順：

- 1 **[Info]**（情報）が表示された状態で、**[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを押して、**[Brightness]**（輝度）画面が表示されるまで画面を切り替えます。
- 2 **[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを2秒間長押しし、**[High]**と**[Low]**を切り替えます。画面の輝度が、選択したオプションに基づいて変化します。



リークディテクタ

情報モード

ブザー

リークディテクタをオンにすると、ブザー設定はデフォルトの **[On]** になります。つまり、リークディテクタは、バーレベル数が2より大きくなると、警報音を出します。

ブザー設定の変更手順：

- 1 **[Info]** モードが表示された状態で、**[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを短く押し、**[Buzzer]** 画面が表示されるまで画面を切り替えます。
- 2 **[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを2秒間長押しし、**[On]** と **[Off]** を切り替えます。ブザー機能が、選択に応じて変更されます。



自動オフ

バッテリー電源モードでは、電源をオンにすると、機器はデフォルトの「自動オフ」になります。つまり、何も操作をせずに10分経つと自動で電源がオフになります。自動オフ設定をオフにすると、手動で電源を切るまでリークディテクタは動作し続けます。

USB電源モードでは、**[Auto off]** 機能は常にオフで、**[Auto off]** 設定の切り替えは無効になっています。

自動オフ設定の変更手順：

- 1 **[Info]** モードが表示された状態で、**[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを押して、**[Auto off]** 画面が表示されるまで画面を切り替えます。

リークディテクタ 情報モード

- 2 [Enter/Clear/Toggle] ボタンを2秒間長押しし、[On]と[Off]を切り替えます。[Auto off]機能が、選択に応じて変更されます。



エラー / 警告

[Info] モードが表示された状態で、[Enter/Clear/Toggle] ボタンを押して、[Error/Warning] (エラー / 警告) 画面が表示されるまで画面を切り替えます。



表3 エラー / 警告コードの説明

コード	タイプ	説明	トラブルシューティング
01 No Cal Info	エラー	校正情報がありません	Agilent 技術サポートに連絡してください
02 No Verif	エラー	リークディテクタは検証されていません	Agilent 技術サポートに連絡してください
03 No Setting	エラー	リークディテクタの設定が見つかりません	Agilent 技術サポートに連絡してください
04 No Cart	エラー	カートリッジが検出されません	有効なカートリッジを取り付けてください
05 No MF Info	警告	メインフレームの情報がありません	Agilent 技術サポートに連絡してください
06 I2C Fail	エラー	ハードウェア通信障害	リークディテクタを再起動してください
07 No Fltr Date	警告	フィルターの日付情報がありません	Agilent 技術サポートに連絡してください
08 Filter Exp	警告	フィルターの期限が切れています	フィルターを新しくして、フィルター更新日をリセットしてください
09 Low RTC Bat	警告	RTC（リアルタイムクロック）のバックアップ用電池の残量が低下しています	Agilent 技術サポートに連絡してください
10 Zero Fail	エラー	ベースライン補正エラー	リークディテクタを再起動してください
11 Need Zero	エラー	電圧が範囲外のため、電圧ドリフトが大きい状態	[Detection] モードで [Clear] ボタンを押してください
12 Ver Mismatch	エラー	ファームウェアのバージョンがカートリッジのバージョンと一致していません	ファームウェアを最新バージョンにアップグレードしてください
13 Invalid Cart	エラー	カートリッジのタイプを特定できません	Agilent 技術サポートに連絡してください

リークディテクタ

情報モード

フィルターの日付情報

[Info] モードが表示された状態で、**[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを押して、**[Filter]** (フィルター) 画面が表示されるまで画面を切り替えます。

[Filter] 画面には、現在取り付けられているカートリッジの日付情報が表示されます。これは、フィルターを新しく取り付けた日 (New) と、その1年後のフィルターの使用期限 (Due) の日付です。さらに、フィルターの残りの使用期間をグラフで示した長方形のバーがあります。



フィルターの使用期限が過ぎると、長方形のバーは完全に塗りつぶされ、長方形のバーに **[Expired!]** (期限切れ!) と点滅表示され、ユーザーに通知します。



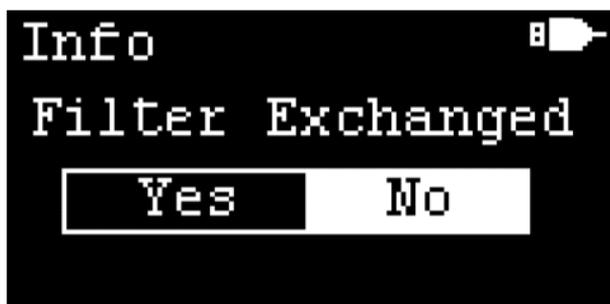
リークディテクタ

情報モード

フィルターの交換

[Filter Exchanged]（フィルター交換）画面は、リークディテクタのフィルターの交換準備ができていることを示します。デフォルトでは、**[Filter Exchanged]** 画面は表示されません。以下の2つの場合に表示されます。

- 1 フィルターの使用期限が過ぎると、**[Filter Exchanged]** 画面が **[Info]** モードページに自動的に追加されます。
- 2 **[Filter Exchanged]** 画面は、**[Filter]** ページで **[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを2秒間長押しすることによって手動で表示させることができます。



[Filter Exchanged] の変更手順：

- 1 **[Filter Exchanged]** 画面で、**[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを2秒間長押しし、**[Yes]** と **[No]** を切り替えます。
- 2 変更したい項目が強調表示された状態で、**[Enter/Clear/Toggle]** ボタンを短く押し、オプションを選択します。

フィルターの日付のリセット

【Reset Filter Date】（フィルターの日付のリセット）画面では、新しいフィルターを取り付けた場合に、フィルターの日付を更新します。【Reset Filter Date】画面は通常非表示で、【Filter Exchanged】画面で【Yes】を選択した場合にのみ表示されます。



【Reset Filter Date】の変更手順：

- 1 【Reset Filter Date】画面で、【Enter/Clear/Toggle】ボタンを2秒間長押しし、【Yes】と【No】を切り替えます。
- 2 変更したい項目が強調表示された状態で、【Enter/Clear/Toggle】ボタンを短く押して、オプションを選択します。
【Yes】を選択すると、【Filter】の【New】（フィルター更新日）が現在の太平洋標準時刻にリセットされ、【Filter】の【Due】（フィルター期限）が【New】日の1年後に設定されます。

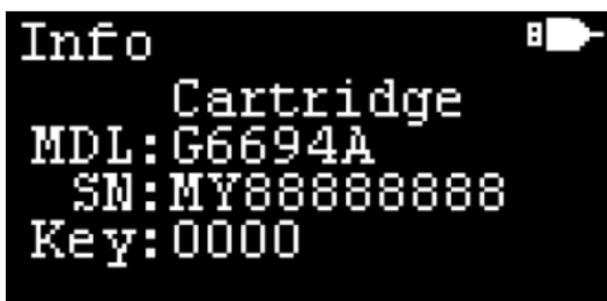
リークディテクタ

情報モード

カートリッジ情報

[Info] モードが表示された状態で、[Enter/Clear/Toggle] ボタンを押して、[Cartridge] (カートリッジ) 画面が表示されるまで画面を切り替えます。

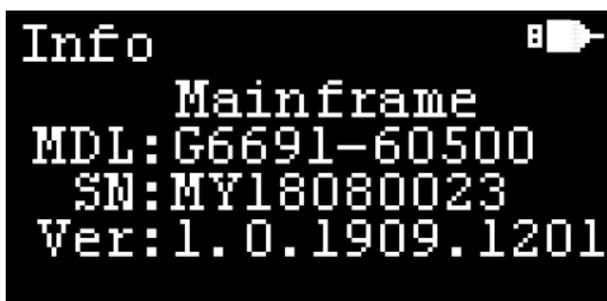
[Cartridge] 画面には、現在取り付けられているカートリッジに関する情報が表示されます。これには、カートリッジのモデル番号 (MDL)、シリアル番号 (SN)、キー番号 (Key) が含まれます。



メインフレーム情報

[Info] モードが表示された状態で、[Enter/Clear/Toggle] ボタンを押して、[Mainframe] 画面が表示されるまで画面を切り替えます。

[Mainframe] 画面には、メインフレーム本体に関する情報が表示されます。これには、モデル番号 (MDL)、シリアル番号 (SN)、ファームウェアバージョン (Ver) が含まれます。



漏れの検出

- 1 [Power/Mode] ボタンを短く押して、リークディテクタの電源をオンにします。
- 2 リークディテクタのウォームアップが開始されると、ポンプの音が聞こえるようになります。ウォームアップが完了するまで待ちます。機器は、**[Detection]** (検出) モードに自動的に切り替わります。
- 3 **[Detection]** モードで、画面のバーレベルを観察して、機器が安定していることを確認します。安定している場合は、バーは1本で、塗りつぶされているバーと塗りつぶされていないバーが交互に表示されます。機器を安定させるには、プローブを持ち上げて周囲の空気にさらす必要があります。
 - 画面にバーが複数表示されている場合は、[Enter/Clear/Toggle] ボタンを短く押して、ベースライン補正を実行します。
 - チップのドリフト、温度、湿度の変動は、安定性に影響を及ぼす可能性があります。
- 4 プローブをガスの接続部に近づけて、漏れがないか調べます。熱伝導がリークの検出結果を左右する可能性があるため、プローブチップがフィッティングやチューブなどに触れないようにしてください。
 - 3本以上のバーレベルが表示されると警告音が鳴ります (**[Buzzer]** が **[On]** に設定されている場合) 。
- 5 毎回、プローブを周囲の空気中で保持した状態で、[Enter/Clear/Toggle] ボタンを短く押してください。精度を確保するためには、漏れが疑われる部分のプロービングを行う前にこれを実行する必要があります。

リークディテクタ

プローブフィルターの交換 / 修理

プローブフィルターの交換 / 修理

リークディテクタには、粒子による汚染を防ぐために、プローブにフィルターが取り付けられています。フィルターが詰まると、検出感度が低下するおそれがあります。

- 1 プローブを上に向けた状態で、プローブチップを回して外します。
- 2 プローブのオス部分を下向きにして軽くたたき、メッシュフィルターを取り出します。
- 3 メッシュフィルターは、圧縮空気で逆洗するか、丸ごと交換することができます（部品番号 G6694-60005）。
- 4 必要に応じて、プローブチップを逆洗してください。
- 5 メッシュフィルターを所定の位置に挿入し、プローブチップを回して取り付けます。

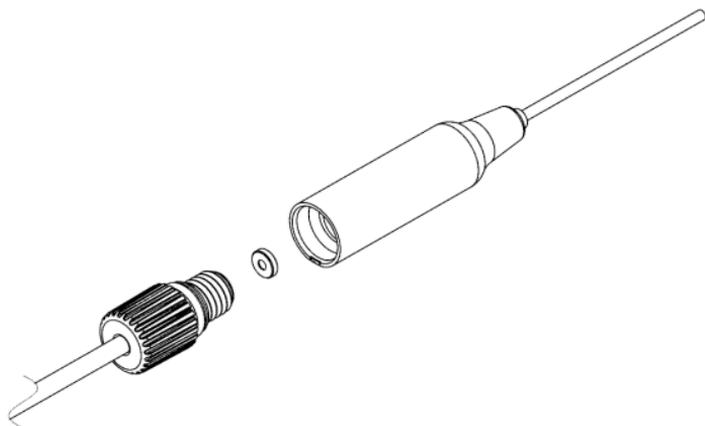


図 5 分解した状態のプローブフィルター

USB インタフェース

機器側面にあるマイクロ USB ポートから電源を供給することができます。

注記

USB ポートから電源を供給しても、内蔵電池は充電されません。



このリークディテクタは、USB ポート経由で接続されている PC と通信することができます。付属の USB ケーブルを使って USB ポートをコンピューターに接続することにより、リークディテクタのデータを収集することができます。機器と PC との通信には、リークディテクタの USB ドライバが必要です。

リークディテクタ

USB インタフェース

詳細については、

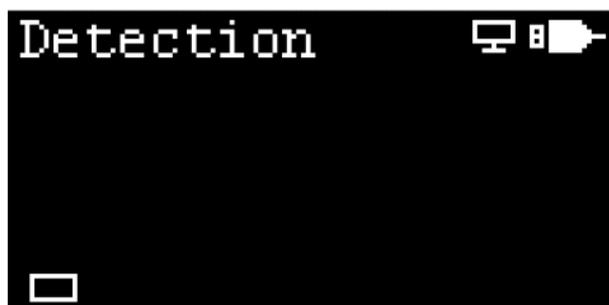
www.agilent.com/en/product/gas-purification-gas-management/gas-management/gas-leak-detector にアクセスしてドライバをダウンロードし、「Agilent CrossLab CS PC Connection User Manual」ドキュメントをご覧ください。

注記

リークディテクタのデータ収集機能を使用する場合は、自動オフ機能を無効に設定してください。17 ページの「**自動オフ**」を参照してください。

リークディテクタに USB ポートから電源を供給している場合は、画面上には、電池アイコンの代わりに USB コネクタのアイコンが表示されます。

リークディテクタを PC ソフトウェアに接続している場合は、リークディテクタのボタンは使用できません。PC に接続されているかどうかは、画面上の USB アイコンの左側のアイコンによって示されます。



リークディテクタ

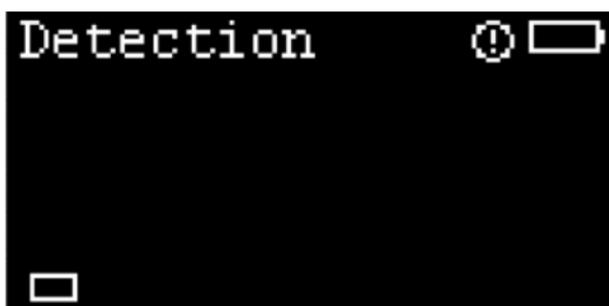
警告およびエラー表示

警告およびエラー表示

画面上には、状況に応じてさまざまな警告やエラーが表示されます。各表示について以下に説明します。

警告表示

リークディテクタが仕様の範囲外で動作している場合、フィルターの期限が切れている場合、RTC 用電池の残量が少ない場合などに、警告アイコンが画面に表示されます。



エラー表示

ハードウェア障害が発生した場合には、エラーアイコンが画面に表示されます。この例では、リークディテクタのカートリッジが検出されなかった場合を示しています。



リークディテクタ

電池残量の低下

電池残量の低下

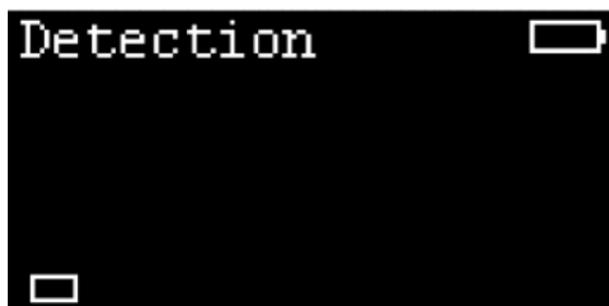
電池を交換する必要がある場合は、電池残量低下の表示が画面に現れます。電力不足で動作できない場合は、リークディテクタは自動的にシャットダウンします。



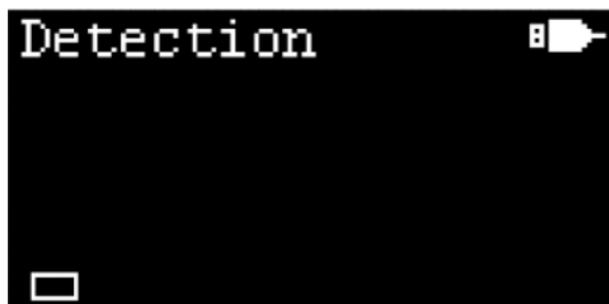
電源のインジケータ

リークディテクタには、電池または USB ポートから電源を供給できます。

電池で動作している場合は、画面に電池アイコンが表示されます。



USB ポートから電源を供給している場合は、画面に USB アイコンが表示されます。



リークディテクタ

カートリッジの取り付け / 交換

カートリッジの取り付け / 交換

カートリッジの取り付け

CrossLab CS メインフレームは、ADM フローメータ用カートリッジ（部品番号 G6692A）およびリークディテクタ用カートリッジ（部品番号 G6694A）を搭載できるプラットフォームです。

注記

リークディテクタ用のカートリッジを単独で購入した場合は、リークディテクタを初めて使用する前に、既存のメインフレーム本体を最新のファームウェアに更新してください。

リークディテクタ用カートリッジをパッケージから取り出して、CrossLab CS メインフレームのスロットに挿入します。2 個の固定ねじを手で締めます。リークディテクタ用カートリッジには、検出プローブとチューブが取り付けられています（取り外し不可）。

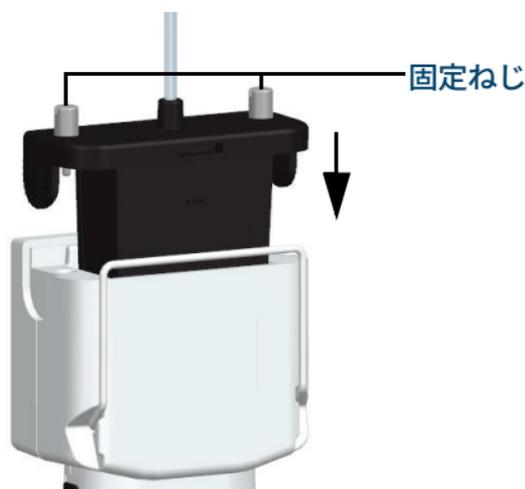


図 6 リークディテクタ用カートリッジを CrossLab CS メインフレームのスロットにセット

リークディテクタ

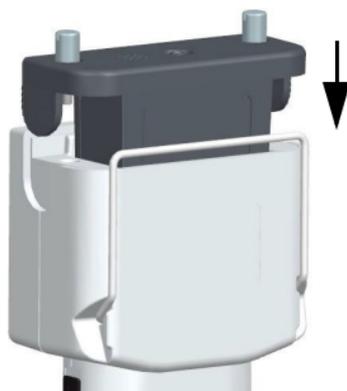
ADM フローメータ カートリッジの交換

ADM フローメータ カートリッジの交換

- 1 [Power/Mode] ボタンを 3 秒間長押しして、機器の電源を切ります。
- 2 両方の固定ねじを完全に緩め、 CrossLab CS メインフレーム本体からカートリッジを取り出します。



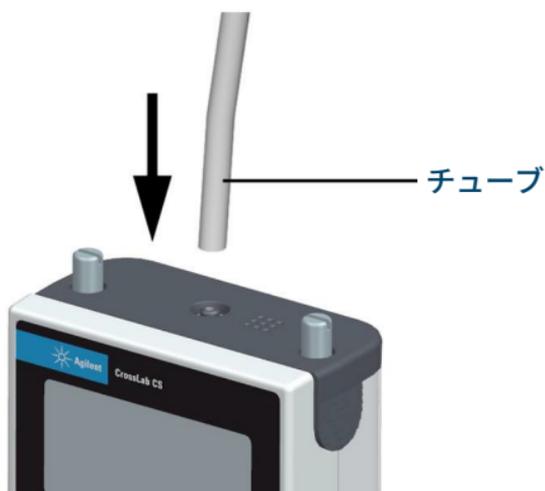
- 3 ADM フローメータのカートリッジを CrossLab CS メインフレーム本体に挿入します。2 個の固定ねじを手で締めます。



リークディテクタ

ADM フローメータ カートリッジの交換

- 4 新しいフレキシブルチューブを取り付けます。



リークディテクタ

電池の交換

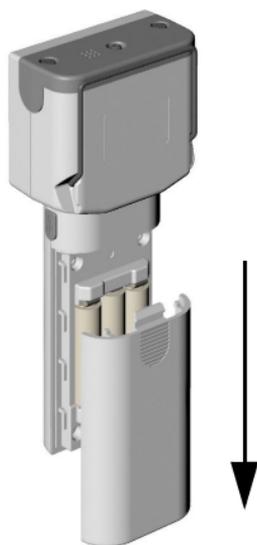
電池の交換

注記

使用済みの電池は、各地方自治体が定める方法に従ってリサイクルしてください。

電池の交換手順：

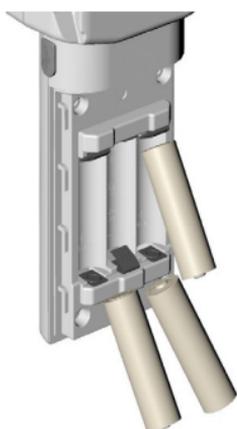
- 1 [Power/Mode] ボタンを3秒間長押しして、リークディテクタの電源を切ります。
- 2 リークディテクタ背面の溝の部分に親指を当てて押し込み、電池カバーをスライドさせて取り外します。



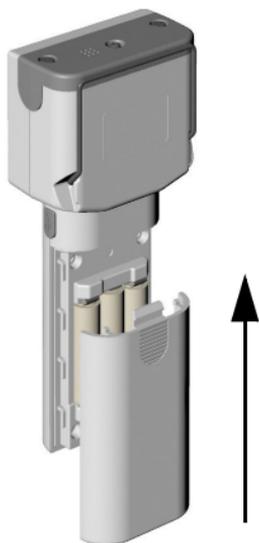
リークディテクタ

電池の交換

- 3 本の単三電池を取り出して交換します。



- 4 電池カバーを取り付けます。電池の上に電池カバーを置き、元の位置に固定されるまでスライドさせます。



- 5 [Power/Mode] ボタンを短く押して、リークディテクタの電源をオンにします。

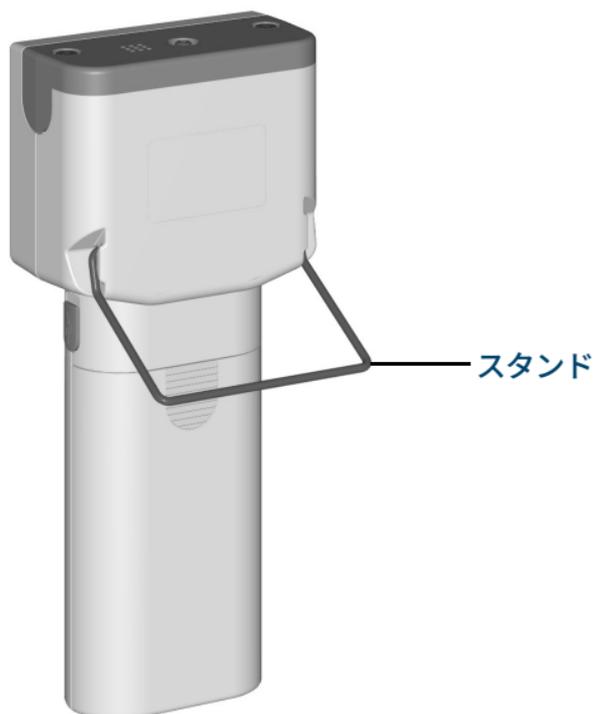
ファームウェアの更新

フローメータのファームウェアの新しいバージョンが利用できる場合は、PCを使用して、リークディテクタのUSBコネクタ経由で最新バージョンにアップグレードすることができます。

手順については、<http://www.agilent.com/chem/> を参照してください。

リークディテクタスタンドの使用

折り畳み式のワイヤースタンドを利用すると、リークディテクタを作業台より高い位置に置いた場合に、見やすい角度に調整できます。完全にロックされるまでスタンドを引き下げて使用してください。



リークディテクタ

安全および規制に関する認証

安全および規制に関する認証

国際電気標準会議（IEC） 61010-1 安全規格に適合しています。

電磁環境適合性（EMC）および無線周波数干渉（RFI）に関する以下の規制に適合しています。

- CISPR 11/EN 55011: グループ 1、クラス A
- IEC/EN 61326-1

この ISM デバイスは、カナダの ICES-001 (A) に適合しています。

Cet appareil ISM est conforme a la norme NMB-001(A) du Canada.

クラス A EMC 認証

この機器は、商用環境での使用の適合性を評価されています。家庭環境で使用した場合、無線周波数干渉の危険性があります。

ISO 9001 に登録された品質システムで設計および製造されています。



リークディテクタ
クラス A EMC 認証

(空白ページ)

www.agilent.com

© Agilent Technologies, Inc. 2021

第 1 版 2021年11月



G6693-96000

